

特別
リ 5
12431
2



17
115
12431
2

平治物語卷第二目錄

- 一 治賢門軍事付てぶくりゆりつる中
- 一 義朝六波羅子考らるる中頼政心算申漢楚殺る
- 一 六波羅合戦此事
- 一 義朝しほゆの事
- 一 此ぶくりゆりつる事并ていこの中
- 一 常盤ちうきん信西子息あつてきほよきとら
- 一 義朝の事君をうけ事并ていこの中
- 一 義朝の事君をうけ事并ていこの中





平治物語卷第二

待賢門軍 甘 びやうをわつるゆ

去程ふたはぬれ會あはよよハ公卿きやうせんをらていふより
と召進しやうせり。うんぬいこきよらういと拵たれ股はまふ。
た右のこてまうして。わあがし引きて。大床おほよりこころん
中なか実國まもしく。れをを下くだされらる。まもるも。後のちこゆなを
ままささやくはほらびんゆうこがひき。ふしたはくしうん
ままうれ内裏うち表へ也や。りらうらわらば。朝あまれはちゆも。うべし
軍いははりりして引きて。ぞうば。けうこらしてすい。あじり。さう
ら官軍くわんと入いる。内裏うちとまもる。せまき。大おほなる。さう
ままうらうらある。うべし。たを下くだされけし。清きよ盛さかりこ
ままの。朝あまれ。りらう。まもる。の。まもる。いふ。まもる。らうの

平治物語

二

四月一日。時刻より... 矢先なる... 張良の... 金剛を為り... 頼盛あり... 子息右衛尉... 西河東より... 平治也

西河東より... 今日の日... 平治也... 平治元年... 矢先なる... 張良の... 金剛を為り... 頼盛あり... 子息右衛尉... 西河東より... 平治也

頼朝もたり。馬の屏向をぬきし。たゞ家老の我ま乃
 上りて。井とて。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 田。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 を。壁。ち。の。付。て。い。う。あ。り。と。も。さ。う。ま。し。や。ん。ら。ん。は。ん。は。ん。と。て。鎌。田
 の。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 て。す。い。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 せ。い。つ。く。中。に。を。さ。て。し。け。つ。の。備。れ。地。位。か。う。そ。の。り。の。海
 ころ。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 せ。い。つ。く。中。に。を。さ。て。し。け。つ。の。備。れ。地。位。か。う。そ。の。り。の。海
 ころ。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 や。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 ころ。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海

わなをらう。大将をわらうんと志ありけり。大將もあ
 考わらず。政家とて。せ。い。つ。く。中。に。を。さ。て。し。け。つ。の。備。れ。地。位。か。う。そ。の。り。の。海
 仰らわらう。三。か。き。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 ころ。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 ち。し。や。ま。ん。と。せ。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 ころ。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 て。我。ら。を。引。び。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 家。の。志。を。感。ず。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 ころ。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 二。人。れ。き。が。つ。ひ。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海
 二。十。七。日。れ。き。が。つ。ひ。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海。と。て。ま。よ。と。お。ら。ま。あ。た。わ。ら。う。の。り。の。海

せりたり。其より、官軍をひいて、いかにあるべきか
 けしきハ派員由裏へ入えとて、そころよ大波羅ゆとぞ
 ちからちからさう別當とばぬ兵衛、これゆきて
 いひおちかして、東三條より入るよ。じや、二門、んを
 討せり。このり、一騎、じや、けい合を、わすれたそ
 り、安藝、丹國、百人、東條、及び、名、おの、所、と、り、引
 て、い、お、一、其、く、ひ、と、やく、是、の、い、う、は、ば、敷、あ、や、い、い、い、う
 と、い、と、一、い、れ、じ、や、よ、と、せ、じ、う、ひ、成、也、い、ぬ、そ、い、い、い、う、い、い、
 ぬ、さ、れ、ぬ、の、伯、人、大、本、戸、八、多、く、名、乗、と、ば、て、ね、い、志、也、
 くら、ひ、れ、や、ぬ、い、て、お、く、其、く、ひ、ぬ、て、是、の、い、う、ハ、お、お、お、お、
 け、あ、れ、く、ん、え、ん、や、い、ゆ、と、て、や、す、の、い、う、云、々、れ、い、げ、い、い、り、り、れ、
 け、り、け、り、け、り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 けるが、二條、堀、河、中、て、せ、お、り、お、ま、れ、よ、よ、二、つ、れ、い、い、い、い、
 して、ひ、く、軍、足、を、り、ある、地、れ、者、た、よ、あ、つ、きて、び、く、ひ、い、い、
 ぬ、う、と、
 て、日、美、守、中、を、あ、ら、い、く、油、も、と、け、り、也、右、は、つ、れ、つ、れ、お、
 ろ、び、き、あ、い、ん、り、ん、を、軍、中、ら、ま、て、は、い、軍、中、の、あ、ら、い、と、
 ひ、ま、ど、り、い、り、く、お、ち、い、く、と、そ、せ、ら、ま、け、り、う、う、と、も、ま、お
 て、は、い、大、内、も、と、ま、れ、つ、と、し、は、く、これ、せ、あ、わ、よ、付、て、お
 け、あ、つ、い、お、ま、で、お、ら、ま、け、り、う、六、波、羅、か、う、い、と、して、河、原、を
 だ、り、う、よ、お、ら、ら、ま、け、り、也、金、丸、丸、先、を、見、て、右、は、門、に、寄、る
 こそ、お、ら、ら、ま、け、り、お、ち、い、く、を、油、い、まん、と、り、ま、い、い、い、い、い、
 あ、き、て、い、れ、お、く、ち、ん、あ、ま、い、が、中、つ、つ、さ、う、せ、う、せ、い、ぬ、ぞ、と、
 河、原、と、く、り、よ、そ、い、お、ら、ま、け、り、也、



義朝六波羅より頼政心算は付漢楚我の中
 去程六波羅より五條の橋をこりりきうひそくひて
 傳和源氏すあつらとてとれどつと流りけり
 傳盛とこの一とせしめられしをせら換けりつとて
 ぬてきと海より入るひたし甲とて海よりとて
 せし。わけてやんゆんととれられしをせら換けりつとて
 てまれば向ひて君とてしうまき一海つとてきうまきとて
 なるもの海より入るひたし甲とて海よりとて
 とをわけてやんゆんととれられしをせら換けりつとて
 こそきとてしうまき一海つとてきうまきとて
 何原より入たり。海原を深田とて。わきよひく入るる
 なるもの海より入るひたし甲とて海よりとて

せん河内をさうらふとねはゆがぞくひひしてさうらふ
 て五十よりそとせしむはも兵庫はくつ。源氏から
 ぬへへ門のまじり由裏へはつん。平家へいひる上りて
 し六波羅へはつんとつ。これせう海軍海軍のつらひに
 ともせうへいへらう海軍のつらひに源氏れあひ
 しはくさうのつらひにさうらふてさうらふてさうらふ
 字へさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 たり。日頃の百餘をも向ひ干渉をもあつてさうらふ
 し。とも。海軍のつらひにさうらふてさうらふてさうらふ
 きのあまのつらひにさうらふてさうらふてさうらふ
 とも。さうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 あり。矢よさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ

くのひのひくさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 せうはさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 うつてはさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 さうらふてさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 兼兼南南方方ともさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 色色はくさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 とも。これさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 つらひにさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 おつてさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 れはさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 て西西向向ともさうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 あり。さうらふてさうらふてさうらふてさうらふ
 あり。さうらふてさうらふてさうらふてさうらふ

ようやくおれなり。おれはつらとそまりよ。女刑部むすめがらふ
 せうしきいひていめいとうとうとていふべし。まじら
 せよ。あつてたあせし。いかにいかにいかにいかに
 せん。ちかみせていかにいかにいかにいかにいかに
 刑部むすめがらふはすみ者たしのあつた。いかにいかにいかにいかに
 てせうしきいひていかにいかにいかにいかにいかに
 まじら。あつてたあせし。いかにいかにいかにいかにいかに
 だ。酒部さかべちようもまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一そらりそれ。祿りやくよ。酒部さかべをわらまらまらまらまらまら
 れ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 早はや家いへよ。あつてたあせし。いかにいかにいかにいかにいかに
 ら。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 わらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 好このら。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 ころそ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 およ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 ら。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 色いろら。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 西さいよ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 て。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 ころそ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 ころそ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

平家物語

四

有いふもそのれにそよひにさるりてよもきたんよ。かゝる世に
 ハ孝コウハ忠チュウハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。してらるる列レツはあはれにさるりて。
 のあはれにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 ハガミハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。我ガハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。我ガハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。
 のあはれにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 うふはれにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 海ウミにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 我ガハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。我ガハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。我ガハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。
 れらち細コトよりて。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 ちよらち細コトよりて。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 ちよらち細コトよりて。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 ちよらち細コトよりて。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 ちよらち細コトよりて。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。

漢カンハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。我ガハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。我ガハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。
 平ヘイ葛カクの事コト。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 大ダイの事コト。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 をて身ミをいふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 をらち細コトよりて。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 てさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 まらち細コトよりて。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 のくゆれら。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 兵ヘイ書ショハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。我ガハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。我ガハ一イツハ若ニヤク者モノの事コト。
 地チの事コト。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 地チの事コト。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 地チの事コト。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 地チの事コト。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。
 地チの事コト。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。いふにさるる。



六波羅合戦の事

去程に源太の舟より六波羅へまゐらるる。一人童子
 けいひのめれまのきりよすまてうらひたり。金子れ十郎
 家へい保元れりのきんまるとなめるとれ陣よりも入るる
 れ三郎兄弟とらんてうら。八郎はるりのの夫のまをれ
 りまて名をあきくはら。と夜にまらまらうもくうらひたり。
 矢うのまをひのけりし。うと引ね。た刀ともおれれば、お
 ち刀とひのけり。あつ事したりのふと一合戦せんしあつ。あ
 うまらうぬ。同國れ信人あがら右のれせうと、あつしを
 事れば。是れいんは是まあ。た刀おりてい。あまは、いぞい
 べと、いんあつらんと、とされ。あつしを、いぞい、い
 色。あつし、いんあつらんと、とされ。あつしを、いぞい、い

を清盛の御ひげの。あせくつらぬよらちあつちがひの
 なきまごころ。まじしは近付らぬ。いでくつらぬまご
 と。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 ちかきと。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 うららふらうらうら。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 ぬやふあまはしけの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 大將軍の。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 うららふらうらうら。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 平の。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 と。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 おとら。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 て。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。

わめたり。孫子づひき。知子房うはら。知子房うはら。知子房うはら。知子房うはら。
 ちかき。平家の大せ。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 うららふらうらうら。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 万化して義平三つ。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 ぬらうらうら。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 うららふらうらうら。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 ちかき。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 て。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 西へ引あけけ。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 うららふらうらうら。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。
 あり。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。あせのひげの。

故よりけしむらちりてやましくもりしと高代はれん
 んんをりてかごとまりつゝおのふおしとておとろりふまへん
 ねれごころへまゝのりつゝの會戦にふりてんをいふや
 れる。おんろりつゝおのりてりてんをいふや
 ちりして敵をけりてんをいふや
 んれひをきぬくはるけりてんをいふや
 つまひつゝつゝいふは力とて。兵わまふありま
 りまをいふとていふは力とて。河原をいふや
 せいしん

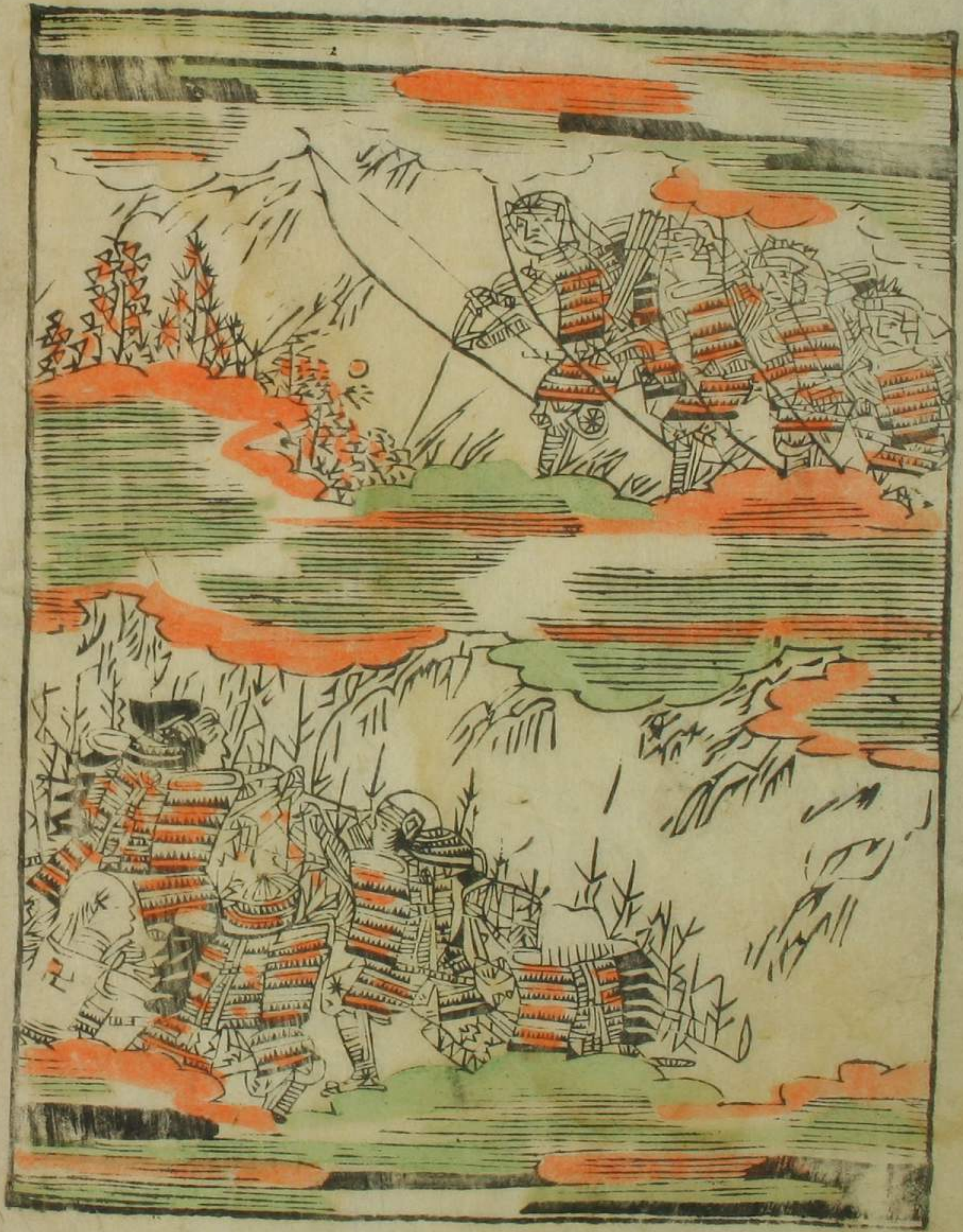


平治巻二

六

河内高所よとせまで見かねば。軍よとそつぐ人へ本
 なるよ。持佛孝^{ちがひ}の方よ人々と志をねば。ひてつらよ。ひ
 り君佛前よゆるらよとせけり。けり。まのてねらえ
 してこそそもくさつらよといひけり。つらよのなつらよを
 さもぬひく。東國おしん高かちつかひ。ひり君のほめよもの
 うかし。高つとせぬひく。もせ。へ。そひ。我い。こい。こ
 て。こよ。さ。つら。も。も。ま。そ。義朝^{よしかた}れ。じ。こ。り。よ。あ。で。い。さ
 た。せ。ら。さ。い。ら。と。さ。ん。と。い。も。し。た。れ。わ。ん。ま。し。ぬ。う。こ。と。え。し
 こも女に身はつらあしかりけり。ゆめなし兵来たれしけあは十三
 こまう。ゆめも。お。い。の。ま。び。し。こ。ま。よ。あ。く。は。と。も。し。め。ぞ。り
 し。こ。う。く。十。四。よ。の。ま。した。女。に。か。り。て。の。い。し。こ。う。も。我。力。の
 くらよもの。あ。も。は。な。れ。ら。び。ひ。け。り。さ。い。ゆ。め。さ。ら。つ。ら。よ。し。け。り。

兵衛まう我をこりてうはあのちんらんよ。ま。こ。く。ま。い。は。ん
 ち。う。け。な。も。い。た。は。い。せ。し。や。し。の。せ。い。さ。し。が。あ。し。り。こ。い
 と。り。か。し。て。は。こ。ま。や。う。こ。ま。の。れ。お。さ。り。佛。お。よ。じ。り。ひ。ま。は。あ。
 りをね佛よりまをぬへ。ま。ま。い。あ。は。し。と。あり。さ。う。ま。い。ん。と
 だ。れ。は。ば。う。ぶ。な。れ。か。り。り。は。だ。ま。り。し。や。う。君。ま。し。い。こ。ま
 て。解。し。し。そ。ゆ。つ。せ。た。ま。こ。ひ。り。ぞ。あ。り。れ。ま。な。ら。か。べ。こ。ま。ま。こ
 こ。ら。て。目。れ。ま。も。も。は。は。え。さ。し。て。な。る。い。居。た。う。ひ。り。ま
 えて。ま。や。ち。う。つ。ら。ん。こ。い。こ。い。こ。も。こ。う。ぬ。へ。ハ。カ。あ。く。二。カ。と
 して。さ。ら。い。さ。ね。は。い。ま。が。い。ま。が。う。た。あ。め。て。こ。せ。り。う。う。の
 あ。れ。ち。ん。らん。よ。入。り。た。れ。つ。只。一。つ。は。ま。を。し。て。な。み。こ。よ。む。せ
 い。ぬ。い。け。り。が。ひ。山。に。お。り。よ。ま。り。お。つ。僧。に。け。り。この
 ぼ。ら。び。は。け。り。せ。り。け。り。て。ま。り。お。い。て。ぞ。お。ら。ら。ま。し。け



侍頼（侍頼）うんが事（侍頼）并（侍頼）さいじれ事（侍頼）

志願は信頼（侍頼）ハ、一ととよまてらきて、のせれ松原（侍頼）も
 ねて久されけり。それまでハ、はれ五サ、まづりみけり。い
 ぬ人よ、うまきとて、みゆまふし、ぬりひバ、侍頼（侍頼）ま
 かりかひが、一ハ、末（侍頼）とき、それりちりく、よぬらゆ
 き、うみれ、これ（侍頼）初（侍頼）れ大捕（侍頼）り、うまぞ、なりよ、けり。あま
 甲（侍頼）に、けり、まて、て、ぬへ、ま、台州（侍頼）よ、て、馬（侍頼）より、い、ま、さ、あ、ら
 し、が、つ、ひ、あ、ぬ、て、ま、つ、せ、け、れ、と、し、け、れ、ま、の、一、ま、
 け、ら、ま、て、ぬ、ひ、の、ま、き、か、つ、く、け、を、う、ま、と、い、く、く、
 の、こ、入、ぬ、り、ひ、ま、り、て、一、つ、も、め、ま、ま、さ、り、せ、り。又、馬（侍頼）より、こ
 れ、せ、て、い、け、り、入、を、ぬ、り、し、ま、い、ま、ま、き、ハ、仁和寺（侍頼）へ、し、ぬ、り
 ま、り、る。ま、え、ん、だ、ぬ、へ、が、お、よ、ま、り、山（侍頼）法（侍頼）師（侍頼）れ、死、し、ち、り、ま、り、

こころにありては二重の月ありてはつらつらとわがれぬれば
 久しき世にありては花室をきかす人の凡そたゞこの感義に
 とつら眼筋よるこそ家柄かゝれぬ難とて思ふに御も御川
 三香と和歌二年の射るも海に波の波に漂はるる世にわたりて身を
 清はた後代久き二年の世にとて殿平重の天下御めで民
 唐亮兼の仁恵よかり海に波の波に漂はるる世にわたりて身を
 とたれとて懐えよ合我とて海に波の波に漂はるる世にわたりて身を
 由とてわがれ世にありては年月とて遠らよとて又はわがれ世にありては
 由とてわがれ世にありては年月とて遠らよとて又はわがれ世にありては
 秋のり向くは九月の日にありては秋のり向くは九月の日にありては
 秋のり向くは九月の日にありては秋のり向くは九月の日にありては
 秋のり向くは九月の日にありては秋のり向くは九月の日にありては



常盤

信西子息者

家よ馬九頼義とて凡末子九條院のまうし常盤つて
ぬつ三人を兄ハとあとしてせつあり申ハしつて五未

半多とく七幸せきたり義朝いらつめむろくあられ

いま八金五丸をるりあつて合我よりあつてつらと

わらわの九七のあらはつてしてひらまはるおほい

もよるに七やとつてあつていふもよるの深も

男とあつて我とてしきを福徳をまつてあつてつらと

わらわ引つてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



うやまをあらまふおらけく事

去程にた馬れうまは。かこ田のうへおきて。うやまをあらまふ事
 ぬふ。懐あれ清子れ名残。よびんづり。こそおらけく事。念
 られをうて。いふくか。あ。こそ。おらけく事。念
 佛。うやまをあらまふ。うやまをあらまふ。うやまをあらまふ。念
 いら。び。を。う。て。い。ふ。く。か。あ。こそ。おらけく事。念
 ら。ん。と。せ。ら。ま。い。れ。た。お。ら。け。く。事。念
 へ。其。より。引。ぬ。き。お。ら。け。く。事。念
 ま。て。か。あ。ま。い。れ。た。お。ら。け。く。事。念
 ぬ。き。お。ら。け。く。事。念
 の。よ。め。い。つ。ま。い。れ。た。お。ら。け。く。事。念
 ぬ。き。お。ら。け。く。事。念
 ぬ。き。お。ら。け。く。事。念

ついでして。波もれ次郎より。三つにわかれ。次郎の。一は。二は。三は。四は。五は。六は。七は。八は。九は。十は。十一は。十二は。十三は。十四は。十五は。十六は。十七は。十八は。十九は。二十は。二十一は。二十二は。二十三は。二十四は。二十五は。二十六は。二十七は。二十八は。二十九は。三十は。三十一は。三十二は。三十三は。三十四は。三十五は。三十六は。三十七は。三十八は。三十九は。四十は。四十一は。四十二は。四十三は。四十四は。四十五は。四十六は。四十七は。四十八は。四十九は。五十は。五十一は。五十二は。五十三は。五十四は。五十五は。五十六は。五十七は。五十八は。五十九は。六十は。六十一は。六十二は。六十三は。六十四は。六十五は。六十六は。六十七は。六十八は。六十九は。七十は。七十一は。七十二は。七十三は。七十四は。七十五は。七十六は。七十七は。七十八は。七十九は。八十は。八十一は。八十二は。八十三は。八十四は。八十五は。八十六は。八十七は。八十八は。八十九は。九十は。九十一は。九十二は。九十三は。九十四は。九十五は。九十六は。九十七は。九十八は。九十九は。百は。

由りて。波もれ次郎より。三つにわかれ。次郎の。一は。二は。三は。四は。五は。六は。七は。八は。九は。十は。十一は。十二は。十三は。十四は。十五は。十六は。十七は。十八は。十九は。二十は。二十一は。二十二は。二十三は。二十四は。二十五は。二十六は。二十七は。二十八は。二十九は。三十は。三十一は。三十二は。三十三は。三十四は。三十五は。三十六は。三十七は。三十八は。三十九は。四十は。四十一は。四十二は。四十三は。四十四は。四十五は。四十六は。四十七は。四十八は。四十九は。五十は。五十一は。五十二は。五十三は。五十四は。五十五は。五十六は。五十七は。五十八は。五十九は。六十は。六十一は。六十二は。六十三は。六十四は。六十五は。六十六は。六十七は。六十八は。六十九は。七十は。七十一は。七十二は。七十三は。七十四は。七十五は。七十六は。七十七は。七十八は。七十九は。八十は。八十一は。八十二は。八十三は。八十四は。八十五は。八十六は。八十七は。八十八は。八十九は。九十は。九十一は。九十二は。九十三は。九十四は。九十五は。九十六は。九十七は。九十八は。九十九は。百は。



義朝時問下るれ事 忠むのむらうれ事

去るふりともいふ大炊りともよありあまなりかてとあ
 をひりぬいやくくもあふ大炊いさうてゆとをな
 せぬらりんとしけきともう海道をきばあかりぬ
 し朝長といふつゝぬとくおじとあゆみぬ。宿れあ
 とともうしきと二三百人といせたり。さこの式部乃夫
 備ととんくうとむきをなりうら死してととまうせい
 けんとくあまよとくし入る引おたれつぐらうせい也
 さう人たともさんくよけらしてこやとれ森よと結
 ひびうあてさす人いさう。た馬れりともとととまうせい
 ぞ。我よよかきたりおとらんむぐらうせいとく。まらその
 段をけげららるる文字よりさ切て。共九とやにけしよ



頼朝のおけりよ下着れ事

去程に去流れまけれぬと海をさうりけし廿二日廿八
 日れ敷ちりよとあふとれいさされておれかよと人
 と海といぬひけりふせよのたふけとせとこいふとと
 山寺れあんととのちと人海といぬおきかの事ま
 よしとるこ屋よと考ぬハれとこのととておめし
 山をぬかんとあやことゆるん。れ宮よはうとてこ
 とけぬるを一人たりととてとて。六波羅へ海りせを
 履ばらんやうよあつとぬむととあどととて。つよわりて
 ちあかりとんとととぬひと。わに海をせとぬき終ふ。あが
 れこころありとやとぬひぬひを。老屋のつきをせり。
 一とてひけしハ老吏同くうう海りせと。月の中

八景と云はる。やまをくまを流しふ。又是は何しかは流す
 始れ小卒れあたると海にぬきまが。今をうじしむせしふたま
 わぬ谷河は付て。たどりぬきぬき。まじりぬきぬき。あひぬきぬき
 此舟は情あて。今をきぬきぬき。まじりぬきぬき。あひぬきぬき
 つつとむねむき。れあへ流すまじりぬきぬき。あひぬきぬき
 たりて。わやえぬきぬき。まじりぬきぬき。あひぬきぬき
 て。うきぬきぬき。あひぬきぬき。まじりぬきぬき。あひぬきぬき
 ぬきぬき。あひぬきぬき。まじりぬきぬき。あひぬきぬき
 わぬきぬき。あひぬきぬき。まじりぬきぬき。あひぬきぬき
 まは。ぬきぬき。あひぬきぬき。まじりぬきぬき。あひぬきぬき
 せ。ぬきぬき。あひぬきぬき。まじりぬきぬき。あひぬきぬき
 て。ぬきぬき。あひぬきぬき。まじりぬきぬき。あひぬきぬき



平治物語表 第二卷

平治物語表

四十七



